



### 茶臼山城跡

宝珠山山頂にあった伝えられるが、現在では城跡らしき明確な遺構を見ることができない。嘉吉の乱（嘉吉元・1441年）の後、赤松氏を滅亡させた山名持豊が赤松の残党に備えて城を築いたと伝えられる。

### 妙見寺観音堂

妙見寺は真言宗の寺院で、かつては宝珠山の南斜面に16の坊舎と9の庵があったというが、嘉吉の乱やその後の僧兵一揆により灰燼に帰したと伝える。観音堂は享保7年（1772）に建築されたもので、赤穂市指定文化財となっている。

### 児島高德墓

『太平記』によれば、南朝方の忠臣として各地を転戦した児島高德は、その晩年に坂越で没したという。船岡園には児島高德の墓と伝えられる五輪塔が残されている。

### 大避神社

大避神社は、坂越の産土神で、祭神を秦河勝とする。秦河勝が生島に漂着した由緒により毎年10月第2日曜に行われる祭礼では、御旅所のある生島へ華麗な船団による船渡御が行われ、「坂越の船祭」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。

### 坂越浦城跡

宝珠山山麓の上ノ山という小丘にあり、『播磨鏡』では赤松村秀が城主であったと伝える。後に坂越小学校の運動場になり、城の遺構は失われたが、現在は展望広場として整備され、坂越湾の眺望を楽しむことができる。

### 小倉御前の墓

かつて南朝の皇族（後亀山天皇の皇子）が、南北朝の争いに敗れ坂越に隠棲していたが、嘉吉の乱後、山名持豊が坂越に進出するに及び、ことこれまでと坂越の海に入水自殺したという。坂越浦城跡のあった上ノ山の南麓に小倉御前の墓と伝えられる五輪塔が残されている。また、入水したという海中には御前岩とよばれた岩があったが、現在は埋立により陸地となったため見ることはできないが、東之浜に石碑が建てられている。

### 生島

周囲1.63kmの小島であるが、古来大避神社の神地として人の立ち入りや樹木の伐採を禁じられてきたため、島の植生は極めて自然性の高い照葉樹林が保たれていることから、「生島樹林」として国の天然記念物となっている。また、島内には大避神社の祭神である秦河勝の墓や、御旅所などが残されている。

### とうろん台

かつて海に面して5間四方、高さ1間半の石積み台があり、とうろん台と呼んだ。この上に柱が建てられ、神戸海洋気象台から入電する気象情報を、「たま」と呼ばれた布製蛇腹の吹き抜きを揚げて報じていた。

### 旧坂越浦会所

天保2～3年（1831～1832）にかけて建築され、明治まで坂越浦の会所として使用されたほか、赤穂藩主が坂越に来訪した際には休憩所としての役割を果たした貴重な会所建築であり、赤穂市指定文化財となっている。現在は、江戸時代の姿に修理がなされ、公開されている。

### 大道井跡

坂越三井の一つに数えられ、昭和10年（1935）の上水道通水まで住民の生活用水として、また船舶の積込飲料水の供給源であった。現在は交通量の増加や道路整備により姿を消し、石の井戸枠が付近の路地に保存されている。

### 鳥井町地藏堂

享保6年（1721）に建てられた地藏堂で、内部には石造の地藏菩薩坐像が安置されている。その規模は一間四方と小さいながら、動物や植物の立体的な彫刻を多く用いるなど豊かな装飾をもっており、赤穂市指定文化財となっている。

### 坂越まち並み館

旧奥藤銀行の建物を使用して、坂越のまち並み創造や来訪者の散策の拠点として整備された。内部にはかつての銀行の風情を残す大金庫が残されているほか、坂越の歴史・文化・産業についての展示を楽しむことができる。

### 木戸門跡広場

かつては、坂越浦の治安のため、この場所に木戸門が設けられており、今も路傍には木戸門の礎石や道しるべの道標が残されている。現在は木戸門のモニュメント・休憩所・トイレが整備された広場となっている。

### 宝珠山展望台

大避神社から妙見寺前を通り、さらに山頂の鉄塔まで行くと坂越湾を一望できる。そのまま宝珠山から小島までのハイキング、あるいは八十八箇所石仏巡りもお勧めのコース。

### 船岡園

大正3年（1914）に児島高德の550年忌を記念して開設された公園で、桜の名所である。園内には児島高德の墓や顕彰碑があるほか、開園当時にあった「縮遠居」という東屋が再建され、眺望を楽しむことができるようになった。

### 奥藤酒造郷土館

坂越のまち並みを散策する時に見どころとなる資料館で、奥藤酒造の敷地内にある。郷土館内には、酒造・廻船・漁業関係の資料が展示され、廻船業や漁業で栄えた坂越の歴史を学ぶことができる。

## 坂越浦の歴史と文化 ぶらり見て歩きガイド